

【第 17 回卒業式 祝辞】

第 17 回 京都医療技術短期大学卒業式 祝辞

京都医療科学大学 学友会会長 埜藤 眞純(43 回生)

梅の開花だよりが聞かれ、水温み草木が萌え出する本日ここに、第 17 回京都医療技術短期大学卒業式が盛大に挙行されますことは、ご同慶のいたりでございます。

学友会を代表して、卒業生の皆さんに、心からお祝いを申し上げます。皆さんの晴れやかな表情からも、ひとつのことを成し遂げた達成感と新しい生活への期待感が伝わってまいります。また、ご家族の方々には、長年にわたるご養育のご苦労に深い敬意を表しますとともに、心よりお喜びを申し上げます。

本日は、輝かしい未来へ向けて出発する節目のときであります。皆さんは、京都医療技術短期大学での修学、また先生方や学友など多くの人々との交流を通して、豊かな人間性と幅広い教養、さらには、本分である放射線技術に関する基礎知識と技能を身につけられました。これからは、あらゆる場面で社会人として放射線技師として自身の人格や能力が試され評価されます。

学生時代は、用意された答えに到達すればよかったかも知れませんが、これからは物事を主体的に判断し、柔軟な発想のもとに行動していかねばなりません。ここで重要なのが知恵を働かせるということです。知恵とは、事に当たって適正な判断をし、それを適切に処理できる能力のことです。新しい創造には不可欠なものといわれています。少し古い話になりますが映画にもなった「リング」、「らせん」などで皆さんもご存知の「鈴木光司」氏は「なぜ勉強するのか」という著書の中で述べています。幅広い学習の中で知識を深めることで理解力、想像力、表現力が養われるのだと、この力をつけることにより、膨大な情報の中から必要なものを取捨選択し、物事を合理的・論理的かつクリアに最良の判断ができるのだといっています。先ほどいいました知恵の素になるものも知識です。途切れない学習で知識を高め知恵を働かせて社会人として活躍してほしいと思います。

今、社会は、目まぐるしく変容しています。医療界も例外では無く、安全・安心しかも効率の良い医療を求めています。私たち放射線技師の周辺でも専門技師制度や免許更新制度が取り入れられようとしています。その背景には、日進月歩の技術に対する専門性の維持、医療従事者としての資質向上への希求があります。日本放射線技師会では技師の心構えとして「医療を求める人々に奉仕すること」、「チーム医療の一員として行動すること」、「専門分野の責任を遂行すること」、「人々の利益のため生涯にわたり学習すること」、「インフォームドコンセントを尊重し実践すること」の5つを掲げています。ここでも生涯学習の重要性を訴えています。技師としてまた医療人としてスタートを切る皆さんに是非知って欲しいと思い紹介させていただきました。

ここで学友会の紹介をさせていただきます。本会は 1928 年わが国初のレントゲン技術者の教育機関「島津レントゲン技術講習所」開校の翌年に発足しています。以来、79 年の間に専門学校、短期大学と変遷を経るなかで、3,800 名を超える卒業生が巣立ち、医療界で活躍されています。

学友会の目的は、「学友相互の親睦と結束」と「母校発展の協力と後援」で、その活動の柱は、隔年で開催される全国総会、年 4 回の情報誌「学友だより」の発行、さらには会員相互の連携を密にするため発行される会員名簿があります。また、全国にある 18 の支部でもそれぞれ総会を開き親睦と交流をはかっています。

終身会費を既に払い込んでおられる皆さんは、卒業と同時に「京都医療科学大学学友会」の会員となります。所属する支部は勤務先で決まります。

これから社会に出るといろいろな悩みや疑問が生じることもあると思います。所属する支部の活動に積極的に参加し先輩と面識をもって親交を深め親しく何でも相談していただきたいと思います。

最後に、皆さんには、心身ともに健やかで、京都医療技術短期大学で学んだという誇りと自信をもって、自ら選んだ道に存分に力を発揮されますことを祈念して、“はなむけ”の言葉といたします。

以上